第 11 章 施策の実施計画の策定・実施

１．施策の実施計画の策定

本章では第７章から第 10 章に定めた「保存管理」、「活用」、「整備」、「運営・体制の整備」の方法の各項目を整理し、実施する期間を示す。

施策の実施期間は第１章３．（２）で示した令和６(2024)年度～令和 15(2033)年度の 10 か年を前期(短期計画)と後期(中期計画)に分けて取り組むこととし、総括表に示す。なお、保存管理については、長期的な観点からの方針決定や事業計画、調査が必要なことから、中期・長期計画を示すこととする。

●短期計画(令和６年[2024]～令和 10 年[2028])

史跡活用のための環境整備及び早急な保護を要する遺構の調査・整備を優先的な目標とし、史跡の日常点検や運営体制の構築をめざすとともに、これらと連動しながらこれまでの調査成果や取り組みをもとに保存・活用を図る。

●中期計画(令和 11 年[2029]～令和 15 年[2033])

短期計画で積み残した取り組みや生じた課題を踏まえて、中期で取り組む施策の着実な実施をめざす。遺構保護整備や樹木管理については、長期的な観点からの方針決定や実施方法の検討が必要であるため、短期計画で得られた成果をもとに優先順位を決定し実施する。

●長期計画(令和 16 年[2034]以降)

将来的に整備を検討する範囲も対象として、令和 16(2034)年度以降の実現をめざし、両市の総合計画の改訂に合わせて計画の見直しを行う。

表 34　実施計画総括表

<table>
<tr><th>区分</th><th>施策</th><th>短期計画
(令和 6 年度～令和 10 年度)</th><th>中期計画
(令和 11 年度～令和 15 年度)</th></tr>
<tr><td rowspan="4">保存管理</td><td>調査研究</td><td>○調査研究へ取り組む体制を確保する。
○「石垣台帳」作成し、石垣の測量調査を実施する。
○継続的に資料調査に取り組む。
○石垣や地下遺構の構造把握等の調査を実施する。</td><td>○「石垣台帳」の作成を継続するとともに「石垣台帳」による石垣の適正な保存管理を継続する。
○短期における取り組みを踏まえ、生じた課題に応じて発掘調査等の考古学調査の実施を検討する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">遺構保存</td><td>○既にき損している遺構の復旧方法について検討する。
○保全方法やき損時の対策方針を策定する。
○危険木を伐採する。</td><td>○樹木の維持・管理や森林管理の考え方について検討する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">○実施可能なものから順次復旧整備を進める。</td></tr>
<tr><td>日常管理・防災対策</td><td>○「石垣台帳」作成する。
○土砂災害時の対応を検討する。</td><td>○短期における取り組みを踏まえ、必要に応じて見直し、改善を行いながら維持管理を行う。</td></tr>
</table>

		○見廻り等の定期的な点検・管理を行う。 ○土地所有者等に遺構保存に関する理解促進を進める。	
	自然環境・景観保全	○登山道沿いや遺構付近にある枯損木・衰弱木を伐採する。 ○眺望景観確保のために樹木伐採等を行う。	○短期における取り組みを踏まえ、必要に応じて見直し、改善を行いながら維持管理を行う。
	獣害対応	○獣害対策の方法を検討する。	
	今後保護を要する土地の追加指定	○追加指定に必要な情報を収集する。	○追加指定の条件が整った場合は国へ申請を行う。
	史跡の公有化	○土地公有化の可能性を検討する。 ○地籍調査の実施を検討する。	○土地公有化の方針が定まった場合、地籍調査と合わせて当地の公有化を進める。
	現状変更等への対応	○保存活用計画に記載された現状変更等の取扱い基準に従い、国・府と協議のうえ、適切に対応する。	
活用	価値の普及･情報発信	○ガイダンス機能を有する施設として、大東市･四條畷市の歴史民俗資料館の機能を強化する。	○ガイダンス機能を有する施設の将来的な整備を検討する。
		○調査成果等に関する展覧会・講演会や飯盛城跡に関する定期講座の開催を継続的に実施する。 ○作成した周知用刊行物は調査成果を踏まえて定期的に更新する。	
	周辺施設・文化財等とのネットワーク	○ネットワークの構築を検討し、周遊ルートの周知・整備等を進める。	
	教育的活用	○小学生・中学生向けの散策マップや小学校社会科副読本への掲載等を検討する。	
		○学校での郷土教育や社会教育の展開等を進める。 ○講演会やシンポジウム、展覧会を開催する。	
	観光活用・シティプロモーション	○歴史ストーリーも含めた多様な活用を展開する。 ○観光部局やシティプロモーション部局、関係機関等と連携して、情報発信や観光活用を進める。 ○府内外からの来場者を対象としたイベントを開催する。 ○ガイドの養成や誘導看板の設置等、来場者の受入れ体制の充実に取り組む。 ○広域的なネットワークづくりを行う。	
	地域のまちづくり資源としての活用	○地域のまちづくり資源として活用したいという方の相談を受け付ける体制を整える。	
整備	遺構の復旧	○優先度を検討し、段階的に復旧整備を進める。 ○破損・変形している石垣の復旧について、応急措置で対応する。	○短期における取り組みを踏まえ、必要に応じて見直し、改善を行いながら復旧整備を行う。
	遺構の保全･防災対策	○優先度を検討し、段階的に保存対策整備を進める。 ○土留め工事等によって、保全･防災対策の整備を進める。 ○獣害被害抑制のための方法を検討する。	○短期における取り組みを踏まえ、必要に応じて見直し、改善を行いながら遺構保全・防災対策整備を行う。
	樹木の維持・管理	○危険木(枯損木、衰弱木等)を把握し、伐採を進める。 ○眺望確保のための伐採等維持・管理を行う。 ○間伐等の森林整備を進める。	

	危険な構造物等の撤去の検討	○危険な構造物等の撤去を検討する。	
	見学環境の整備	○見学可能とする遺構を設定する。 ○見学可能とする遺構については、樹木の伐採等を検討する。	○短期における取り組みを踏まえ、必要に応じて見直し、改善を行いながら見学環境の整備を行う。
		○デジタルコンテンツ上での遺構の公開を継続的に行う。	
	管理･便益施設の更新	○管理・便益施設の定期的な点検と維持管理を行う。 ○機能不全や老朽化している施設は、撤去・更新・移設等を検討する。	
	サイン類の整備	○「公開活用エリア」内に案内板・説明板を整備する。 ○機能性が十分ではないサイン類の更新、撤去等を検討する。	○史跡へのアクセス道において、説明板や見学ルートのサイン類を設置する。
	史跡へのアクセス道の修復･管理	○史跡へのアクセス道沿いの危険木伐採や段木の修復等の維持管理を行う。	
運営･体制の整備	体制整備	○土地所有者、関係団体、関係機関等と連携・情報共有を図る。	○土地所有者、関係団体、関係機関との連携・情報共有を継続する。
計画策定	保存活用計画	○中間検証を行う。	○10 年度目を目途に見直し(第 1 次改訂)を図る。

2．実施計画への対応

今後、飯盛城跡に関わる保存・活用の施策・事業を円滑に進めるためには次の課題への対応が求められる。

●予算の確保
●実施計画の優先順位の設定
●施策・事業の進行管理
●保存・活用の関係者ネットワークの構築